

過去最多の152人が参加 26年度新規入職者研修



開校式であいさつする中村労働委員長

平成26年度新規入社員研修会が4月22日～24日までの2泊3日の日程で、伊奈町の埼玉県民活動総合センターにおいて開催され、会員企業等48社から152人（うち女性27人）のフレッシュマンが参加した。



代表して修了証を受け取る平野さん(平岩建設)

開校式では、主催者を代表して中村労働委員長が挨拶、「物事を完結するには人ではできない。多くの人の協力が必要で、経験、実績、スピードを上げることにより、ユーザーの期待にも応えられるようになるだろう。今日からは社会人としての自覚を持ち、自信を持って行動していただきたい。この研修は仕事ができる人になるための基礎を作るもの。仲間同士の

絆を深め、熱い気持ちを持って修了証を受け取れるよう有意義なものとしてほしい」と述べ研修の成果に期待した。

講師は3日間にわたり全国建設産業教育訓練協会・富士教育訓練センターの花輪孝樹先生が務め、まず、社会人・企業人としてのスタートにあたり、社会人としての責任と義務、社会人としての基本動作から始まり、ビジネスマナー（身だしなみ、挨拶、言葉使い、名刺交換、電話対応、接客対応など）、文書作成の基本、グループ研究などのプログラムを精力的に消化、1日目を終了した。



代表謝辞を述べる木村さん(小川工業)

2日目は、6時30分に起床、朝礼のラジオ体操から始まり、点呼、集団行動訓練、挨拶訓練、指差呼称、危険予知訓練、人前力向上訓練が行われた。続いて、プロ意識確立をめざし、仕事に取り組みの決意、自己表現とコミュニケーションづくりのための実践話法演習、スピーチ演習のほか、目標達成に向けたチーム思考と行動を身につけるためのチーム思考訓練、相互理解と親睦をかねたグループ研究などのメニューにチャレンジ、初

日より緊張感もほぐれ和やかな雰囲気の中で終了となった。

最終日は、横山講師による「建設現場の危険と危険予知」や現場管理の実践などの講習のほか、花輪講師から社会人としてのより良い自分づくりに向けて、他己改善と自己活性化について講義を受けた後、成果のまとめを行い、研修プログラムのすべてが終了、感想文を提出した後、閉校式に臨んだ。

協会を代表してあいさつに立った原参事は、協会事業や活動状況を紹介するとともに、「建設業界は今、公共事業の増大や民需兆円に迫るまでに回復、加えて、適正な賃金の確保や社会保険加入の推進など労働者の処遇改善への動きが強まるなど新たな風が吹き始めています。その風をより強固なものとし、業界を盛り上げていくには若い皆さんのがんばりが原動力となると言っても過言ではない。建設業は、学ばず知識や技術が多方面にわたったり、仕事の習熟に時間を要することも多々ある。時には、粘り強く腰を



講師を務めた花輪先生

据えて取り組むことも必要。どうか日々、自己研鑽を怠らず、知識や技術の習得に励み、将来に向けて大きく飛躍されることを期待している」とエールを送った。

続いて、研修生を代表して全員の修了書を平野恵麻さん(平岩建設)が受け取った後、木村祐輔さん(小川工業)が代表謝辞を述べた。

研修の成果として、謝辞の中で発表された木村祐輔さんの感想文を紹介しします。

「入社して20日余りが経ちました。右も左もわからなかったまま、何から初めていったら良いのかもわからない、そんな状態でこの2泊3日の研修を迎えました。私たちが今すべきことは、この研修の冒頭の言葉に集約されると思います。学生気分を捨て、会社の一員であるという責任を自覚すること。特に私たちは、世間の人にそれぞれの会社の社員として見られているという意識が足りない過ぎたと思います。この3日間で社会人とはかくあるべきという模範を示していただきました。この3日間の研修を有意義だったものにするのか、無意味だったものにするのかは、これからの私たちの意識・行動次第です。この研修で築いた社会人としての礎の上に、立派な社会人人生を築いていきます。最後になりましたが、この研修を開催していただいた埼玉県建設業協会の方々、花輪先生をはじめとする富士教育訓練センターの方々、忙しい中、快く研修に送り出してくださった各々の会社の諸先輩方、県民活動センター並びに県民スポーツセンターの方々に深い感謝の意を示し、挨拶に欠かせさせていただきます。3日間大変お世話になりました。ありがとうございました。」

